

学校法人聖ヶ丘学園 認定こども園 育和幼稚園

2025年度（令和7年）自己評価結果公表シート

認定こども園 育和幼稚園では、本園の教育理念、教育目標達成に向け、2025年度の学校評価（自己評価）を実施しましたので、以下のとおりご報告します。

【自己評価】

- (1) 対象者：常勤教職員18名
- (2) 実施日：2025年7月18日～2026年1月30日（1学期・2学期 各1回実施）
- (3) 実施方法：職員全体会議において、常勤職員に学校評価 認定こども園チェックリストを配付し、認定こども園の取組み状況や 自分自身の取組み状況について評価を求めた。

1. 学校の教育目標

事業の目的： 第3条 教育基本法、学校教育法、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律及び子ども・子育て支援法その他の関係法令に従い、学校教育及び保育を行なうことを目的とする。

教育方針： 1. 遊びを中心とした保育
2. 子ども一人ひとりの善さを伸ばす保育
3. 主体的で対話的で深い学びにつながる保育
上記を方針として、遊びを通して社会性、想像力を育み、生涯にわたる人格形成の基礎を培う役割を担います。

教育目標： ○遊びを生み出し、面白がり夢中になって自らを創りだすことができる子ども
○自分のことを大切にし、人の善さや思いやりに気づく子ども
○基本的生活習慣と態度を身に付け、自ら考え、自信をもって行動しようとする子ども

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

新年度の園内研修（4月1日開催）において、2024年度自己評価の振り返りと2025年度事業計画及び基本方針を職員と共有し、園の教育及び教育方針、教育目標のもと、評価項目に従って自己点検、自己評価を実施する。自己評価については、教育・保育内容の視点を中心に日々の保育について具体的に保育者自身が保育の振り返りができるように自己点検を行う。また、認定こども園に移行し、園全体の経営・組織について、全職員が幼稚園の運営にかかわっていくための相互理解・共通認識の深まりを目指す。保育者自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育及び保育内容の改善に向けた取り組みを目指していくためのものとした。

3. 評価項目の検証結果及び改善策

項目	カテゴリー	項目	カテゴリー
1	教育・保育目標について（5問）	8	研究・研修①園内研修（4問） ②園外研修（2問）
2	教育・保育内容について（16問）	9	情報について（3問）
3	日時程（2問）	10	出納経理（1問）
4	行事について（5問）	11	施設整備（4問）
5	健康管理について（3問）	12	開かれたこども園づくり ① 施設間交流・連携（5問） ② 家庭・地域社会との連携（4問） ③ 子育て支援の推進（6問）
6	食育について（3問）	13	開かれた幼稚園づくり ① 情報の発信（2問） ② 外部評価（1問）
7	経営・組織① 分掌・体制（4問） ② 運営（3問） ③ 年齢別・クラス運営（6問） ④ 保健・安全指導（4問）		

	評価項目・取り組み 状況評価項目	評価	検証結果及び改善策
1	教育・保育目標について	A	保育目標については、前年度の子どもの姿や発達を踏まえ学年ごとに立案している。いくわっこ通信を通して各学年の毎月の目標やねらいについて全職員、保護者が共通認識をもてるようになっている。具体的な内容については、各学年や部署ごとに検討はできているが、非常勤職員へ情報共有の方法を検討する必要がある。また、地域の特色や保護者の願いまでは反映されていないため、検討する必要がある。
2	教育・保育内容について	A	子どもの姿を見取りながら興味関心に応じた環境をいかに構成していくのか、各担任やフリーの職員間でコミュニケーションが取れるようになり、園の方向性に共通理解が図れるようになってきた。幼児の保育実践では、室内や園庭共に環境構成の工夫に取り組んではいるがまだ課題がある。教材教具の活用は課題が残り、はさみの使い方など安全面の配慮が必要である。1歳児は、子どもたちの姿からやってみたいを引き出すようにしている。そのため室内のレイアウトを変更し安全に楽しく過ごせるように環境を整えた。また、手作り遊具を非常勤の職員と共に増やすなどができた。2歳児は、2学期はゆとりがもて、子どもの姿、興味関心からスピード感をもって援助や環境構成に対応できた。預かり保育は、年々生活習慣について、各家庭の考え方や子どもの個人差があり、対応に迷う事が増えてきた。また、環境の工夫をしたいが、日々の保育

			で追われている現状がある。園全体として園庭プロジェクトをスタートしたが、具体的な方向性など今後さらに検討が必要である。季節感を感じる保育や子どもの人権については、職員が今後配慮していきたいと意識を持っていた。今後、具体的な対応について共有していきたい。
3	日時程	A	全学年（3歳未満児、3歳児以上）デイリープログラムなどは適切である。個人差が大きくなっているように感じる事が増えてきた。
4	行事について	B	<p>行事については、「子どもにとってどうか」という視点を踏まえ、見直しを行っている。子どもを中心に子どもの視点から保育を考えることを大切にする「子ども主体」については、職員間では共通理解ができていく。今年度の運動会は、暑さ対策のため時期を11月としたが、感染症が流行したことで開催時期を検討していく必要がある。しかし、場所の問題などで園の希望が叶わない現状もある。運動会や生活発表会などの行事の経験をしていくことで、子どもたちの個の育ち、仲間としての育つ姿がみられるため、今後も、行事の意味について研修などを設けていく。</p> <p>また、今年度は認定こども園に移行し、年長児は、小学校や他保育園との連携が多く、職員も子どもたちも忙しい一年間であった。行事についても職員間で語り合う時間の捻出や、保護者の願いや意見を取り入れる機会についても検討が必要である。</p>
5	健康管理について	A	インフルエンザなどの感染症が流行した際には、特に衛生面に留意する事ができた。玩具の消毒についてはクラスによって対応の差があったため共通認識を確認していく必要がある。
6	食育について	A	今年度より完全給食となり、自園調理となった。1学期は残食が多かったが、少しずつ本来の出汁の旨味や薄味に慣れてきたように思う。栄養面での適量と食の細い子どもの量について園としての対応の方法を検討したい。給食当番の経験や郷土料理について栄養士さんから聞く機会があり、給食によって新たな食材を知り、食育につながり関心が広がってきている。給食会議を実施し、園と給食業者が連携し、子どもの食育の向上に努めている。
7	経営・組織 (1) 分掌・体制 (2) 運営 (3) 年齢別・ クラス運営 (4) 保健・安全指導	B	(1) (2) 認定こども園としてスタートし試行錯誤の中、運営する一年であった。職員は今まで以上に多忙となり余裕がなく、様々な意見が出た。全クラス（幼児・乳児・預かり保育）が毎日の全体会議に参加できる体制、会議の開催時間の検討、各部署、担当係と打ち合わせ時間の捻出、幼児、乳児クラスの連携の方法、情報の共有、伝達方法、内容が変化する対応、担当者の周知など、職員間で意見を出し合い改善策を出していく。(3) 乳児と幼児が積極的に交流するようになってきた。今後、チーム保育を進めるにあたり、乳児と幼児の担任が話す機会を設ける必要がある。また、乳児会議が定期的に行われ継続的に実践を検討し改善に繋げる事ができた。(4) 避難訓練は定期的に行い子どもたちの意識が

			高まっている。健康安全面に着目した発信を家庭や地域に連携啓発を行う必要がある。
8	研究・研修 (1) 園内研修 (2) 園外研修	A	(1) 園内研修で学んだことが保育に生かしている。学んだことで立ち止まるきっかけや職員間で共通理解につながっているが、実施する時間が取れない事が課題である。(2) 職位や職務内容に応じて、各職員が該当するキャリアアップ研修や横浜市、幼稚園協会、保土ヶ谷区が開催する研修に参加し、必要な知識及び技能を身につけ保育の質の向上に努めた。研修受講者が、研修の内容を報告する機会が少ないため、課題はいかに時間を捻出できるかである。自ら研究主題を考えるための機会を作っていく、職員が自己研鑽する意識をもつことも必要である。
9	情報について	A	慎重に取り扱っている。クラス内の保護者同士が連絡を取り合う際、相手の許可を得てから連絡先を伝える個人情報の取り扱いについて職員間で共有した。
10	出納経理	A	会計処理は、適正かつ適切に処理をしている。
11	施設設備	B	園内の安全点検は、危険な箇所を見つけたら、早急に対応はしているが、予防対策には至っていない。不審者対応については職員は行なっているが、子どもと訓練は行なっていないため、次年度は、計画を立てていく。
12	開かれたこども園づくり (1) 施設間交流・連携 (2) 家庭・地域社会との連携 (3) 子育て支援の推進	B	(1) 幼保小の連携、交流で年長児を中心に他園の子どもと遊ぶ機会が増え同じ小学校に行く子どもたちと公園で遊んで過ごしたり、他園のアスレチックで身体を存分に使う遊びの経験や、当園でリレーや綱引きを通して顔見知りになる機会が持てた。また、保育園に参観する機会があり、室内環境について参考となり当園でも手作りおもちゃづくりにつながった。また、進学先と連携を図り必要な情報を報告しているが、交流活動に活かしているとは言い切れないため、今後小学校と職員間の共通理解が必要である。(2) 地域との交流の機会は今後の課題である。未就園児クラス開催の際、乳児クラスの交流ができ刺激し合う事ができた。(3) 区や幼稚園協会、子育て広場相談会など情報を告知しているが、園独自の子育て講座など地域の方を対象に行なっていない。未就園児クラスでは、園長のお話会を設けている。地域の子育て支援に向けて準備を進めたい。
13	開かれた幼稚園づくり (1) 情報の発信 (2) 外部評価	A	(1) 園だよりや、クラス便り、ホームページやアプリを活用して、日々の保育や子どもたちの様子を発信している。(2) 保護者の意見は受け止める必要があるが、無理な要望や過度なクレームにいかに対応していくか、根拠や理由を説明し、納得してもらうことが難しい方がいる。今後の課題である。

4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<p>保育者一人ひとりが学校評価の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んだ。今年度より、認定こども園としてスタートし1・2歳児の子どもたちと幼児が過ごすことで、園内が優しさに包まれ、ゆったりとした園内の中で、乳児と幼児が互いに影響しあう姿が見られ職員も1歳からの育ちに関心をもって過ごした一年であった。</p> <p>認定こども園初年度の運営面では、試行錯誤の中、職員は今まで以上に多忙となり余裕がなく、様々な意見が出た。職員間で共通していた具体的な検証結果は、時間の余裕がないこと、全クラス（乳児・幼児・預かり保育）が集い共通理解を得る機会をどのように進めていくのか、また、幼児、乳児、預かり保育との連携の必要性などが読み取れた。その他、園内の環境面を充実させていくこと、保護者を巻き込んでいくこと、家庭や学校、地域社会と連携を図ることについて、昨年同様に検討の必要性を問う意見が多かった。教育・保育内容に関することについては、保育のあり方、幼児への対応については、子ども一人ひとりと向き合い、丁寧に受け止めて保育する職員が多い。今後も質の高い保育の維持・向上を目指し実践につなげていく。</p> <p>次年度に向けて、検討課題が山積するが、一人ひとりの職員が保育・仕事内容を振り返り、問題意識を持っていきたいと考える。忙しさの中ではあるが、具体的な方策を検討し、担当を決めて職員が自ら進めていく道を探ってきたい。次年度は、自己評価から課題を見出し、改善を図るサイクルを職員と検討していく。日々の保育を通して「自らの保育実践を振り返る」や「専門性の向上や保育の改善」につながることで、また、職員皆で認定こども園の運営にかかわっていくための「相互理解・共通認識の深まり」を目指すことを次年度も引き続き行っていく。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
認定こども園として職員間の情報共有のあり方	認定こども園に移行して一年目の経験から、幼児、乳児、預かり保育の職員が連携し情報を共有できるような環境を整えていく。
休憩時間を確保 語り合う時間	今年度より休憩時間を確保し、気持ちにゆとりが持てる環境を整えていくことを進めたが、学年によっては安定的に休憩時間を取ることができていない。休憩する、自由に語るなどさまざまな職員と接する機会を取るために時間の配分を考えていきたい。
時間の確保	全クラス（幼児・乳児・預かり保育）が毎日の全体会議に参加できる体制、会議の開催時間の検討、各部署、担当係と打ち合わせ時間の捻出、幼児、乳児クラスの連携の方法、情報の共有、伝達方法、内容が変転する対応、担当者の周知など、職員間で意見を出し合い改善策を出していくなど話し合う機会を設ける。
家庭や学校、地域社会と連携	日常の保育や行事に、保護者や近隣の方、近隣の子育て家庭に情報発信して交流する機会を設ける。

学校評価 認定こども園チェックリスト

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	今後取り組むべき課題

項目	内容	評価
教育・保育目標について	(1) 教育・保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか	A
	(2) 目標は、本園や地域の特色を生かしているか	
	(3) 目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか	
	(4) 目標は、前年度の反省を生かしているか	
	(5) 目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか	
教育・保育内容について	(1) 指導計画は、教育・保育計画に基づき作成しているか	A
	(2) 指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか	
	(3) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育士指針に基づく教育・支援を適切に行っているか	
	(4) 自主性や主体性を重んじて生活習慣が身につくようにしているか	
	(5) 子どもの姿を見取り、興味関心に応じた教育・保育を行っているか	
	(6) 子どもの発達や成長につながるよう環境の構成や援助の工夫をしているか	
	(7) 教材・教具を適切に活用しているか	
	(8) 日々の保育実践について振り返りを行い、計画に生かし、子どもの育ちに反映しているか	
	(9) 気候や子どもの活動に合わせ、温度・湿度・換気、照明など配慮しているか	
	(10) 季節の草花などを飾るなど、保育の中で子どもが季節感を感じるように配慮をおこなっているか	
	(11) 子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮ができていますか	
	(12) 子どもに関する必要な情報を職員間で共有しているか	
	(13) 職員間で、保育のねらいや育てたい力について話し合い実践しているか	
	(14) 保育教諭自身が楽しんで保育を行っているか	
	(15) 子どもの人権に十分配慮し、互いに尊重する心を育てているか	
	(16) 評価結果を基に、保育教育の改善に努めているか	
日時程	(1) 3歳未満児のデイリープログラムなどは適切か	A
	(2) 3歳児以上のデイリープログラムなどは適切か	

行事について	(1) 行事の種類や実施回数は適切か	B	
	(2) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか		
	(3) 乳幼児の活動範囲を明確にし、主体的・協同的な活動にしているか		
	(4) 計画・実施・評価・改善の体制をとっているか		
	(5) 保護者の願いや意見を取り入れているか		
健康管理について	(1) 日々の園児の健康状態を観察し一人一人の体調に合わせた保育を心がけているか	A	
	(2) 玩具、遊具等については、常に衛生的に保持しているか		
	(3) 乳幼児突然死症候群(SIDS)や感染症等の予防の対策やマニュアルが用意されているか		
食育について	(1) 食育を通して子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫しているか	A	
	(2) 旬のものや季節感のある食材を用意し、食文化を伝える工夫をしているか		
	(3) 給食室担当者と子どものコミュニケーションが図られるようにしているか		
経営・組織	分掌・体制	(1) 能率的、合理的な運営組織になっているか	B
		(2) 職務内容が明確で協働できる体制になっているか	
		(3) 職員の配置は適材・適所か	
		(4) 係や仕事の分担・割り当ては適切か	
	運営	(1) 各種会議を適切かつ効率的に進めているか	
		(2) 教職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し協力や助言を惜しまず園の運営に関わっているか	
		(3) 打合せ回数、時間、内容は適切か	
	年齢別・クラス運営	(1) 年齢別・クラス目標は、教育・保育目標や重点目標に基づいて設定しているか	
		(2) 年齢別・クラス目標は、乳幼児の実態に即して設定しているか	
		(3) 年齢別・クラス目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか	
		(4) 同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか	
		(5) 意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか	
		(6) 評価、資料(諸記録)を集積しているか	
	保健・安全指導	(1) 年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健 対策を講じているか	
		(2) 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか	
		(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか	
(4) 幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか			
研究・研修	(1) 研究主題は、教育・保育目標の具現化につながるものであるか	A	
	(2) 園内研修の計画・運営は適切か		
	(3) 研究の成果が日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか		
	(4) 研究の実践による乳幼児理解が深まりを見せているか		

	園外研修	(1) 各種研究会、研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか (2) 各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか	
	情報について	(1) 乳幼児や保護者に関する個人情報을適正に取り扱っているか (2) 公文書收受、発送、処理を適切に行っているか (3) 各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか	A
	出納経理	(1) 各種会計を適正かつ適切に処理しているか	A
	施設設備	(1) 園舎・園庭の施設・設備の安全点検を計画的に行っているか (2) 遊具・用具・教材等を、活用しやすいように整理・保管しているか (3) 不審者等に対応する周到的配慮を行っているか (4) 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか	B
開かれた子ども園づくり	施設間交流・連携	(1) 他校種との年間交流計画は、保育・教育目標や 課題に添ったものになっているか	B
		(2) 他校種の幼児児童生徒と触れ合う中で、(乳)幼児が 楽しく過ごし充実感を味わうことができるような配慮や援助・指導を行っているか	
		(3) 指導者同士が、打合せや事前研修・合同研修を行い、互いの教育に対する理解を深め、援助について共通理解を図っているか	
		(4) 参観や保育・授業等指導に参加するなどして、認定こども園・小学校の教育を理解しているか	
		(5) 進学先と連携を図り、必要な情報を交換しそれを交流活動にいかしているか	
	会との連携 家庭・地域社	(1) 参観時間を工夫し、保護者以外も対象にした参観日等を設定しているか	
		(2) 保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か	
		(3) 乳幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか	
		(4) 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか	
	子育て支援の推進	(1) 他の園に、園庭、保育室等を開放しているか	
		(2) 地域に住む子ども同士、あるいは親子が一緒に遊ぶことができるような場の設定を行っているか	
		(3) 地域の実態を捉え、計画的な預かり保育を行っ ているか	
(4) 「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか			
(5) 教職員による育児に係る「子育て相談」は充実 しているか			
(6) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか			

開かれた幼稚園づくり	情報の発信	(1)園だより、学級通信、ホームページ等で園の情報を発信しているか	A
		(2)行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や他校種に対して周知しているか	
	外部評価	(1)地域や保護者の意見を園運営に反映しているか	